

GRFについて：

滑走路運用における安全性と法令遵守を実現するために

GRFとは

ICAOの新しいグローバルレポートフォーマット（GRF：Global Reporting Format）の枠組みは、滑走路の路面状態を評価および報告に関する世界的に統一された方法を作り上げました。安全性の向上を求める声の高まりに応じて、空港に対して法令遵守と技術に関する新たな責務が加えられています。



GRF施行日：
2021年11月4日



GRFは、FAAの離着陸実施評価（TALPA：Takeoff and Landing Performance Assessment）の取り組みから多数の実施内容を採用

GRFの対象範囲

ICAOに登録されているすべての国際空港で準拠が求められます。実際には、ほとんどの国内および地方空港もGRFの共通言語を採用することになります。

滑走路逸脱と安全性



GRFでは、滑走路からの逸脱による安全性および効率性に関する重大な問題を認識



このような事故では乗客および乗務員へのリスクに加え、航空会社や空港における業務の中断と多大なる経済的損失も発生



新しいGRF法は、離着陸時の航空機の性能設定により関連する見込み

GRFの導入に伴う変更



GRFでは滑走路の1/3ごとに観測された水/氷/雪に着目します



滑走路の路面状態の報告において、摩擦計測は主要な方法ではなくなります



GRF形式の報告は世界中（凍結が発生しない地域も含む）で義務付けられ、米国とカナダは引き続きTALPAにも遵守します



定期的な評価に加え、滑走路の路面状態に大きな変更がある場合には必ず評価を行う必要があります

GRF形式の滑走路の路面状態報告について

GRFは、滑走路の評価と必要な正処置に標準化された報告を使用します。報告は以下の2部構成です。

1 航空機性能計算

- 滑走路の路面状態コード（0～6、滑走路の1/3ごとに評価）
- 水/氷/雪の層の深さ
- 水/氷/雪の範囲の評価（25、50、75、または100%）
- 全体的な状況説明（15個の標準選択肢）

滑走路の路面状態コード

0

滑走路は使用不可

6

乾燥、最適な状態

2 状況認識評価

- 雪だまり、薬剤処理、滑走路の長さの不足など
- 自由記述式の選択肢も用意

効率的な運用開始のために重要なこと



スタッフの十分なトレーニングと能力向上



チーム内の協力とコミュニケーション



適切なプロセスとベストプラクティス



最高の技術とソリューションの組み合わせ

ヴァイサラのモバイルGRFレポーター

ヴァイサラ モバイルGRFレポーターは、滑走路の路面状態について信頼性の高い報告を迅速に提供できるため、空港の作業効率が向上します。滑走路の検査官は、正確性と客観性を高めながら、短時間で作業を終了できます。

優れた技術

- ヴァイサラの実績あるMD30センサを中心に構築されているモバイルGRFレポーターは非常に堅牢で、路面状態に必要な計測をすべて実施できます。あらゆる車両に取り付けられ、直感的に操作できるスマホアプリを使用します。

モバイルGRFレポーターの主な特長

- 検査官が滑走路で費やす時間を最短にする迅速かつ信頼性の高い技術
- 手頃な価格で空港の作業効率を向上
- ICAOに準拠した客観性の高い評価と報告

法令遵守にとどまらない利点

ヴァイサラ モバイルGRFレポーターの詳細と、ICAOの新しいGRF要件を満たし、規制環境に関係なく運用改善に活用する方法をご確認ください。